

# 数

# セ

# 三

数学セミナー  
sugaku seminar september 1990  
vol.29 no.09 346

遠山 啓 + 矢野健太郎 = 創刊 日本評論社

## 特集/うごく

- 界面の動きを追う——西浦廉政
- 飛んでいる矢は止まっている——古森雄一
- 不動点——高橋渉
- 軌跡——柴田敏男
- 物理で動きを捉える——渡辺正
- 人工知能での知識の動的扱い——溝口文雄
- 永久機関——中島秀人
- まわって不思議——田松昌三

できることなら、  
あらゆることをやりたい  
——Y.I. マニン

- 現代数学の未来——藤原一宏
- 四見町のバブル・コンペ——小黒三郎
- バック・アップ——深澤良彰
- 今月のひと——小松彦三郎
- Tea Time——福島瑞穂・矢野直明
- seminar house——黒川信重

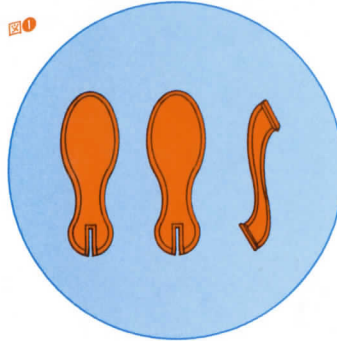
### ICM90ガイド

1990年9月1日発行/毎月1回1日発行/通巻346号/  
昭和37年4月3日第3種郵便物認可

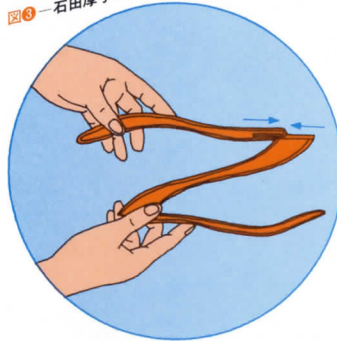
ISSN 0386-4960

# 09-90

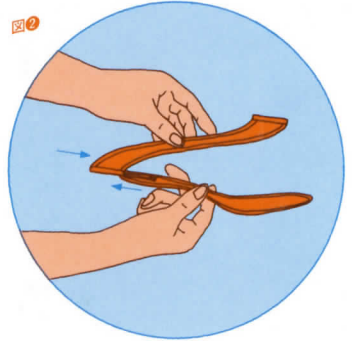
図①



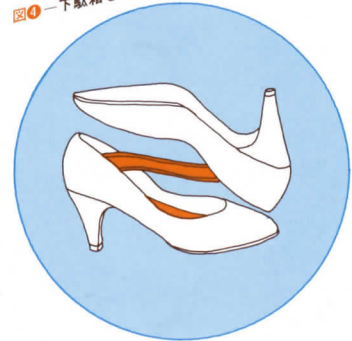
図② 一石田厚子さんの発明



図③



図④ 一下駄箱を2倍に活用



## 靴の収納——西山 豊

何もすることがなく退屈なときは、スーパー・マーケットの日用品売り場をぶらつくといよい。そこには私達の生活に関する必需品がいっぱいあり、またアイデアの宝庫でもある。

ある日、陳列棚に不思議な商品が置いてあるのに気付く。名前は「シューゼット」とあった。プラスチック製で、3つの部品(図①)を組み合わせると図②になる。靴(シューズ)をZ(ゼット)の形に収納すれば、下駄箱を2倍に活用できるというのだ(図④)。特に、かかとの高いハイヒールには有効で、靴の配置に工夫がされているのがミソ。

これを発明したのは主婦の石田厚子さんで、ナレター・コンビニオンの娘さんが四十足も靴を持っていて、下駄箱に収納しきれないことから考え出されたとか。全国発明婦人協会の特別賞を受賞している。最近のコピー商品が出まわっているが、このアイデアは侵害されてはならない。最新の都市部の住宅事情は悪化している。下駄箱の棚を斜めにすれば、奥行きが少しでもせばめられるのではと思うが余り効果がない。数学では「点対称」という用語で片付けられるが、日常生活への対応が我々にできないのが残念だ。主婦のアイデアに脱帽。

(にしやま ゆたか/大阪経済大学)